

## 学校保健管理の現状と保健室経営 養護教諭執務現状と実態調査(Ⅱ)

An Investigation on Realities of “Yōgo”-Teacher’s Work (Ⅱ)

佐々木 ふ さ

Fusa SASAKI

### I は じ め に

さきに、本誌第17号に「学校保健管理の現状と保健室経営」について養護教諭執務現状と実態調査の一分野を報告し、さらにこれからの保健室における養護教諭の執務はどうあるべきか。児童・生徒の生活を考えたとき、健康な精神状態で学ぼうとするには、日常の自分をよく知っておくことである。人間として成長したことを理解させることと、男女共に「からだの発育と心の変化」、その中での思春期という大きな転換期にさしかかるときにあたって、養護教諭としてこの転換期の児童・生徒に対する環境、また個々の性について正しい指導をするためには、児童・生徒の個人的な観察をし、保健室からの保健指導を行なうことが極めて重要な役割りになると考える。

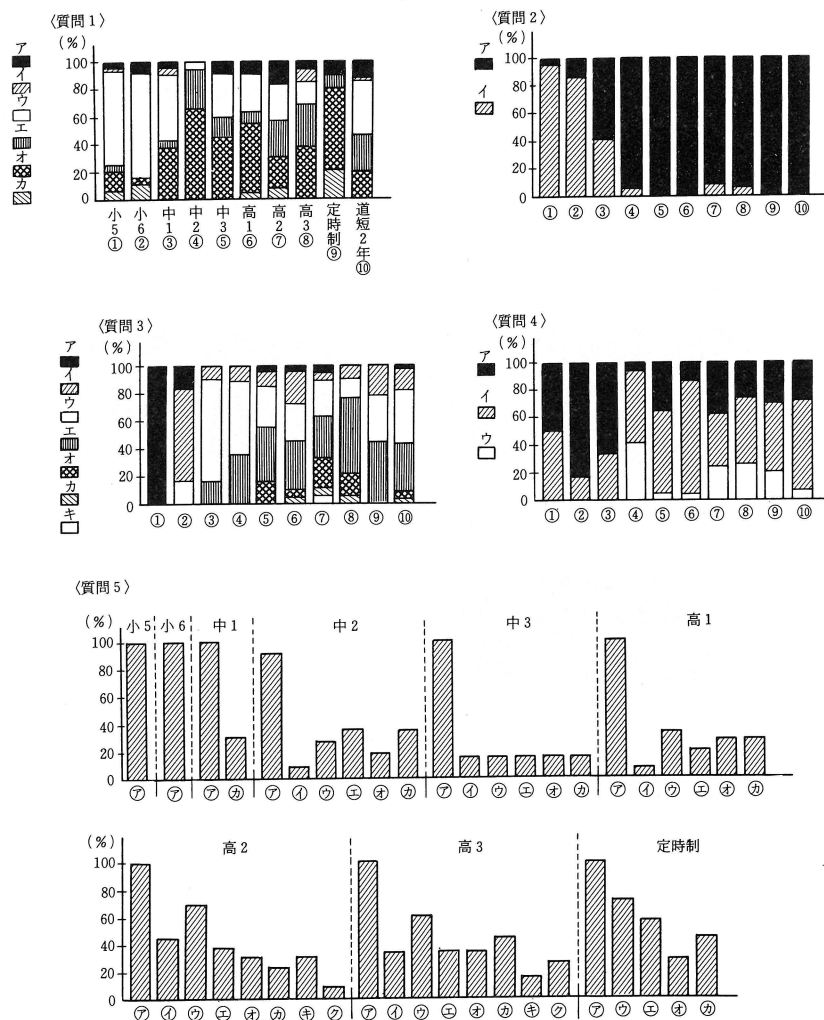
性教育を養護教諭のみにまかせることは、決して望ましいことではない。学校・社会・家庭を通じて一貫する生涯教育の一部である。その中でも思春期を中心に集中的に行なわれる学校教育は、質的にも量的にも性教育の中核をなすものといえよう。文部省は性に関する問題については、教育活動全般の中でとらえ、とくに学級活動を中心に進める方向を示している。最近では、現場の教師や教育委員会などが中心になって具体的問題を扱った「手引書」などが幾種類も出版されるようにさえた。

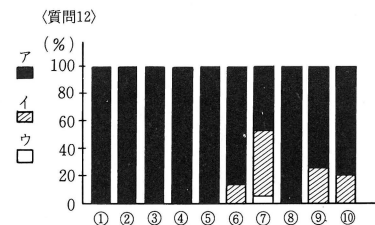
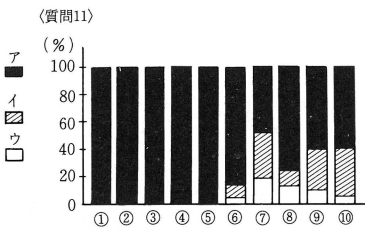
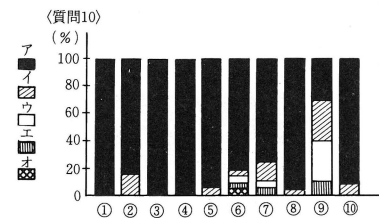
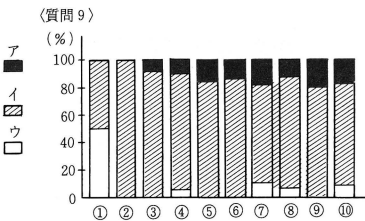
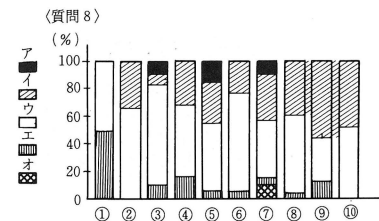
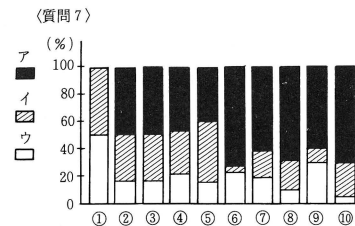
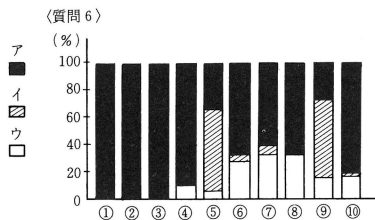
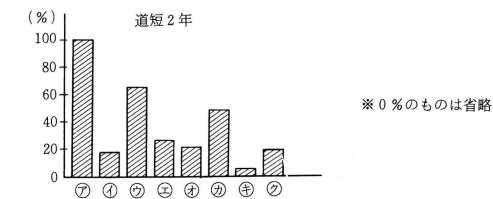
性の教育については、性の生理、解剖学的知識を学ばせようとする考え方や、現代の性解放の世相に起因する性非行や性病の防止に不可避のものであるとする主張がある。反面、性は自然にわかるものとし、性指導は「寝た子を起す」ようなものだという批判もある。しかし、現代の情報化社会でおびたらしいマスコミの性情報は、否応なしに子どもたちの性意識の発達にも強い影響を与えている。しかも、子どもたちの急速な性の加熟加速化現象がある。特に第二次性徴の発現は心身の調和をゆさぶり、自分の身体や成長の変化を考え興味本位になったり、性に対する疑問、不安をつのらせている現実がある。このように生きる子どもたちが、正しい性知識を得、性への正しい理解を深め、無用の悩みを解消し、明るくすこやかに、しかも人間性豊かに育つためにも性に関する指導は不可欠である。

- ア. だいたい正しい      イ. 不規則      ウ. いつなるかわからない

8. 生理中の期間はどの位ですか。  
ア. 2～3日    イ. 4～5日    ウ. 6～7日    エ. 8～10日    オ. 10日以上
9. 生理の量はどの位だと思いますか。  
ア. 多いと思う    イ. 普通だと思う    ウ. 少ないと思う
10. 生理中、学校では体育や部活動はどうしていますか。  
ア. 全然休まない    イ. ときどき休む    ウ. 量が多いので休む  
エ. 休まなければならない程調子がわるい  
オ. その他（ ）
11. 生理中、タンポンを使ったことがありますか。  
ア. 使わない    イ. ときどき使う    ウ. いつも使っている
12. 現在使用している生理用品について答えてください。  
ア. ナフキンのみ    イ. ナフキンとタンポン    ウ. タンポンのみ
13. 牛理のことで聞きたいこと、不安なこと、悩みごとなどがあつたら書いてください。

表 2





## 2. 集計への考察

### 質問1

母・姉・先生という答えが全体的に多い。小学校5年から中学校1年では特に母・姉という答えが多く、それ以外は先生・友人・先輩の順になっている。

### 質問2

現在は小学校でも身体の発育はかなり進んできているが、生理については、小学生ではほと



んどがまだ「ない」と答えている。

#### 質問3

ほとんどが「ある」と答えている。中学校1年以外についてみると、小学校6年、中学校1年から始まったという答えが多くなっている。

#### 質問4

生理が始まる小学校5年から中学校1年では「なんともない」という答えが多く、中学校2年から高校1年では「ときどきひどい」という答えがかなり多く、高校2年以降は3つの答えに大差はみられず、生理開始初期の体調の違いから個人差による体調の違いへと変化して表われている。

#### 質問5

ほとんど全員が「腹痛」があると答えている。また学年が進むにつれて「腰が痛い」「気分がわるい」「全身がだるい」といった答えが増えてきているようである。

#### 質問6

「普通にしている」という答えがほとんどであるが、定時制高校では「ときどき体育を休む」と答えたものが半分以上もいる。また高校以上になると薬を使用しているものも出てきているようである。

#### 質問7

生理の始まったばかりの小学校5年では「不規則」「いつなるかわからない」という答えがちょうど半分の割合になっている。その後は次第に落着いてきて、高校以降ではほとんど規則正しくなっている。個人差はあると思うが年齢とともに生理もだいたい規則正しくなっていく様子がうかがわれる。

#### 質問8

全体的に6～7日間という答えが多く、次に4～5日というのが多いようである。

#### 質問9

生理の量についてはほとんどが「普通」と答えているが、小学校5年ではやはり半数の児童が「少ない」と答えている。

#### 質問10

全体的に「休まない」という答えがほとんどを占めているが、定時制高校の生徒については「休まない」「ときどき休む」「量が多いので休む」という答えに同じ割合を示しており、質問6に続いて他に比べて、体育を休んでいることが多いようである。

#### 質問11

「使わない」という答えが多く、特に小学校5年から中学校3年まではまったくといっていいほど使われていない。高校以降では「使っている」という答えもでてきている。

#### 質問12

質問11と関連してほとんどが「ナフキン」のみの使用になっているようである。高校2年で

表 3

5年女子 (%)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	4.4	2.2	68.9	4.4	13.3	6.7		
2	4.4	95.6						
3	100	0	0	0	0	0		
4	50	50	0					
5		0	0	0	0	0	0	0
6	100	0	0					
7	0	50	50					
8	0	0	50	50	0			
9	0	50	50					
10	100	0	0	0	0			
11	100	0	0					
12	100	0	0					

6年女子 (%)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	7.0	0	76.7	0	4.7	11.6		
2	14.0	86.0						
3	16.7	66.6	16.7	0	0	0		
4	83.3	16.7	0					
5	100	0	0	0	0	0	0	0
6	100	0	0					
7	50	33.3	16.7					
8	0	33.3	66.7	0	0			
9	0	100	0					
10	83.3	16.7	0	0	0			
11	100	0	0					
12	100	0	0					

表 4

中1女子 中2女子 中3女子 (%)

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	4.8	4.8	47.6	4.8	38.1	0			1	0	0	5.0	30.0	65.0	0			1	9.1	0	31.8	13.6	45.5	0		
2	60.0	40.0							2	95.0	5.0							2	100	0						
3	0	8.3	75.0	16.7	0	0			3	0	10.5	57.6	36.9	0	0			3	5	10.0	30.0	40.0	15.0	0		
4	66.7	33.3	0						4	5.3	52.6	42.1						4	35.0	60.0	5.0					
5	100	0	0	0	0	25	0	0	5	90.9	9.1	27.3	36.4	18.2	27.3	0	0	5	100	15.4	15.4	15.4	15.4	15.4	0	0
6	100	0	0						6	91.7	8.3	0						6	84.6	15.4	0					
7	50.0	33.3	16.7						7	47.4	31.6	21.0						7	40.0	45.0	15.0					
8	8.3	8.3	75.0	8.3	0				8	0	31.6	52.6	15.8	0				8	15.0	30.0	50.0	5.0	0			
9	8.3	91.7	0						9	10.5	84.2	5.3						9	15.0	85.0	0					
10	100	0	0	0	0				10	100	0	0	0	0				10	95.0	5.0	0	0	0			
11	100	0	0						11	100	0	0						11	100	0	0					
12	100	0	0						12	100	0	0						12	100	0	0					

表 5

高1女子								高2女子								高3女子								(%)		
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	9.1	0	27.3	9.1	50.0	4.5			1	17.4	0	26.1	21.7	8.7				1	5.7	8.6	17.1	31.4	37.1	0		
2	100	0							2	91.3	8.7							2	94.3	5.7						
3	4.5	22.7	27.3	36.4	4.5	4.5			3	5.3	5.3	26.3	31.6	21.0	5.3	5.3		3	0	9.1	15.2	51.5	15.2	6.1		
4	13.6	63.6	4.5						4	38.1	38.1	23.8						4	25.8	48.4	25.8					
5	100	6.7	33.3	26.0	26.7	26.7	0	0	5	100	46.2	69.2	38.5	30.8	23.1	30.8	7.7	5	100	34.5	60.9	34.8	34.8	43.5	13.0	26.1
6	68.4	5.3	26.3						6	61.5	7.7	30.8						6	69.2	0	30.8					
7	72.7	4.5	22.7						7	61.9	19.0	19.0						7	68.7	21.9	9.4					
8	0	22.7	72.7	0	4.5				8	9.5	33.3	47.9	4.8	9.5				8	0	39.4	57.6	3.0	0			
9	13.6	86.4	0						9	19.0	71.4	9.5						9	12.5	81.3	6.3					
10	81.8	4.55	4.55	4.55					10	76.2	14.3	4.8	0	4.8				10	97.0	3.0	0	0	0			
11	86.4	9.1	4.5						11	47.6	33.3	19.0						11	75.8	12.1	12.1					
12	86.4	13.6	0						12	47.6	47.6	4.8						12	75.0	25.0	0					

表 6

定時制女子								(%)
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	10.0	0	0	10.0	60.0	20.0		
2	100	0						
3	22.2	33.3	44.4	0	0	0		
4	30.0	50	20.0					
5	10.0	0	71.4	57.1	28.6	42.9	0	0
6	28.6	57.1	14.3					
7	60.0	10.0	30.0					
8	0	55.6	33.3	11.1	0			
9	20.0	80.0	0					
10	30.0	30.0	30.0	10.0	0			
11	60.0	30.0	10.0					
12	80.0	20.0	0					

表 7

本学養護教諭コース学生								(%)
	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
1	12.9	2.4	38.8	27.1	17.6	1.2		
2	100	0						
3	3.4	16.1	36.8	35.6	5.7	2.3		
4	27.6	65.5	6.9					
5	100	9.5	65.1	15.9	20.6	47.6	0	0
6	81.2	1.6	7.2					
7	70.1	24.1	5.7					
8	1.1	47.1	50.6	1.1	0			
9	16.1	74.7	9.2					
10	92.0	6.9	0	0	1.1			
11	59.8	34.5	5.7					
12	73.6	26.4	0					

「タンポン」のみと答えた生徒が少数あるだけで「タンポン」のみを使用している者はほとんどいないようである。

#### Ⅳ 関連参考資料

##### 1. 思春期の身体とその特徴

私たちの身体は乳児、幼児、小学生、中学生、高校生と年齢が進み、やがて大人になるまでの間にどのような変化をしていくのだろうか。まずわかりやすい例として「身長の変化」を見る。図1は、それぞれの年齢に応じて身長がどのように伸びていくかを示した身長の发育曲線である。小学校の4年ごろまでは、男子のほうが女子より背が高いのであるが、小学校の5・6年生から中学生の初めにかけては女子のほうが男子より背が高いのが普通である。ところが中学生の終わりごろからは、また男子のほうが女子を超越す様子が図でわかる。このような身長の伸び具合を、1年間に伸びる量でみると図2のようになる。

図1 身長の发育曲線（模式図）

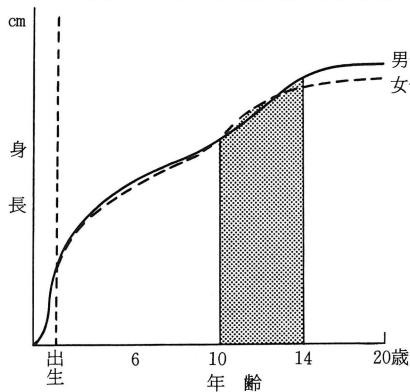
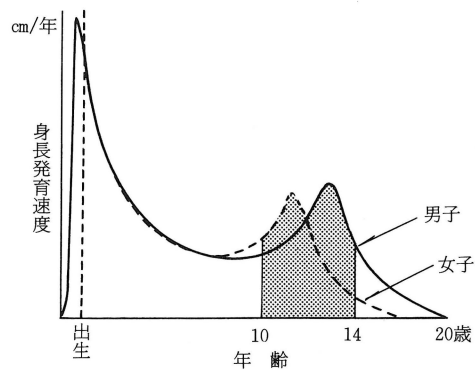


図2 身長の増加量の変化



小学校の5・6年生から中学生にかけての思春期の間が、乳児期を除くと最も急激に身長の伸びる年齢にあたっていることがわかるのである。そしてこのような思春期の変化は、一般的には女子のほうが男子より約2年ほど早くおこることがよくわかる。

小学校や中学校では、毎年春の定期健康診断の時に、身長・体重・胸囲・座高の4項目について发育測定がある。全国の最近の数値を示すと表8のとおりである。

表9は総理府が昭和56年に行なった青少年の性意識調査である。初めて性的関心を示し始めるのは男女とも12歳～14歳の時期が最も多く、15歳で男91.8%、女72.3%が関心を持つようになる。10歳で男11.6%、女5.6%が関心を持ち始めている。異性接触欲「なんとなく異性のからだに触ってみたいと思ったことがある」の答えでも体験しはじめる時期はやはり男12歳～14歳、女子では13歳ころから徐々に累積している。「性的興奮を感じたことがある」と回答したものは10歳で男8.7%、女2.2%で12歳～14歳の時期が最も多く、15歳で累積経験率は男82.5%に至っている。これらのことからこの時期に基礎的な性教育を行なう必要性があることを示しているようである。

表8 児童・生徒（10歳～14歳）の体格

区 分		身 長	体 重	胸 囲	座 高
10歳	男	137.1 cm	32.3 kg	66.7 cm	74.2 cm
	女	138.2	32.5	66.1	74.9
11歳	男	142.7	36.0	69.3	76.5
	女	144.9	37.4	70.1	78.2
12歳	男	149.7	41.2	72.4	79.8
	女	150.6	42.6	74.5	81.5
13歳	男	156.7	46.4	75.7	83.2
	女	153.9	46.5	77.3	83.3
14歳	男	163.4	52.3	79.7	86.8
	女	155.9	49.6	79.5	84.4

表9 56年累積経験率

		10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22歳
性 の 関 心	男	11.6	19.2	42.1	69.0	84.1	91.8	95.5	97.4	98.3	98.9	99.0	99.2	100.0
	女	5.6	9.9	24.8	44.3	59.9	72.3	81.1	85.3	89.6	92.1	94.4	96.0	97.7
異性接触欲	男	9.6	14.4	32.1	54.1	71.0	82.2	89.0	92.3	94.5	95.8	96.6	97.3	98.4
	女	0.9	1.2	3.8	8.1	13.4	19.9	26.3	31.0	38.1	44.7	49.3	57.7	61.5
性的な興奮	男	8.7	13.9	29.7	53.9	72.0	82.5	88.4	91.3	94.4	96.1	97.3	96.9	97.0
	女	2.2	2.7	7.0	12.5	19.5	28.8	37.9	43.2	50.6	60.3	68.7	74.6	82.5
キ ス 欲	男	5.2	7.6	17.5	32.5	46.5	61.4	70.2	74.8	80.8	84.4	88.0	89.8	89.5
	女	0.9	1.3	4.5	11.5	21.9	34.2	43.4	48.0	54.7	61.1	66.1	70.5	77.8

## V ま と め

性教育の基本的な考え。

性教育は人間教育である。

我が国は昔から「性」を人間性の枠外におき、性をべっ視したり、罪惡視したり、青少年には性に関することはなるべく考えさせず、遅く性に目覚めさせるほうがよい、性は自然にわかるものとして、性指導によって寝た子を起こすようなことは誤まりであるという意見、考えが近年まで強かったようである。この考え方は現在もなお一部のものとして残っていることは否定できない。

しかし、昨今の青少年の性成熟、性意識、性行動の実態は目を見張るものがある。総理府青少年対策本部の「青少年の性行動調査によると、デート、キス、性交といった性行動はかなり増加しており、とりわけ女子の積極性が目立ち、女子が男子の経験率を上回る「乗り越え現象」という新たな問題も生じてきているのである。一方、性体験や非行の低年齢化は依然として社会問題であり、教育課題でもある。このような実態から父母の意識も変化し、現代にふさわしい性教育の指導によって青少年の健全な成長を望むようになってきた。学校・社会におい

ても人間教育としての性教育が叫ばれるようになった。

人間教育としての性教育は、子どもの性の事実を率直に認め、この事実を全人間教育の場において焦点化し、性の新しい認識をはかり、態度化し、社会的人格化していくことにある。

人間性とは、人間の性意識や性行動は一般の動物のように性本能を中心にしたのではなく、主として大脳新皮質系における生後の学習やトレーニングにより形成される。即ち人間形成の過程で獲得した心情、知識、意志力などの精神活動、つまり人格と不離一体の関係をもって方向づけられるのである。またその時代の文化によって形成される特質も持っているものと考えられる。このことは人間の性が精神作用の内容（心理、文化、性情報、教育など）によっていろいろな方向を取り得る可能性があることを表わしている。ここに人間の性の特質があり、性教育の重要性と必要性がある。青少年の性意識に条件づけと方向性を持たせ、人間らしい性行動を自己の判断に基づいて選択できる人間に形成するのである。

人間の性の意義の特色は、男と女の間に人生観や行動様式一般に差異を生じさせることになり、しかも身体的構造や生理的機能の面では異なった存在である。その男女関係は人間の生活の中で極めて重要な位置を占めている。健康で幸福な人生を送るか、どうかは同等異質の男女の適切な理解と協力関係で決まるのである。人間の性は男女を中心とした人間関係、そのあり方が基本となっている。云い替えれば、性は人間そのものであり、性の問題は人間のあり方の問題でもあるといえよう。性教育は人間そのものの教育であり、人間のあり方の教育であるともいえる。科学的な性の学習によって性への正しい認識（性の本質、生命の尊厳など）と男女両性の特性や役割りを理解し、人間尊重の深い精神に基づく人間関係、男女平等、尊敬、協力、信頼の態度と徳性を養い、健康で幸福な家庭生活と社会生活を営むことのできる社会的人格を形成していく教育である。学校における教育活動のすべてが性教育の場になるためには、機会に臨んだ教師自身が問題を意識し、性教育の場を設定できる能力を備えていなければならない。そのためには現場の教師が性に関する、医学的、心理学的、教育学的専門知識を深める努力が前提となることであろう。すでに性の問題は養護教諭や学校医の守備範囲を離れ、一般教師全員が積極的に取り組む段階となっており、また養護教諭や学校医は「性器教育」ではなく「教育としての性教育」と理解して、一般教師に協力すべきである。

## 参 考 文 献

- 1) 杉浦守邦監修：学校保健，ソルト出版，1984
- 2) 文部省体育局：子育て中の基礎体力づくり第3集「育ち盛り」，第一法規，1981
- 3) 健康教室増刊号：東山書房，1983
- 4) 児童，生徒の体位，体力とその要因に関する研究：札幌市教育研究所，1982

(1984. 9. 11)